

授業計画書(シラバス)

教科名	キルンワーク I	曜日 時間	水曜日 9:10~15:50	担当教員名	松藤 孝一
-----	----------	----------	-------------------	-------	-------

	前期指導案			後期指導案		
(年 2 間 7 授 回 業 〜 日	4月	12 19 26		10月	4 11 18 25	
	5月	10 17 24 31		11月	1 8 15 22 29	
	6月	7 14 21		12月	6 13 20	
	7月	5 12		1月	17 24	
	9月	13		2月		
方授 法業	(講義 ・ (実技))			(講義 ・ (実技))		
授 業 内 容	<p>素材としてのガラスを重要視しながら、キャストイング、パート・ド・ペール、フュージング、スランピングといったキルンワークの技術を修得していくことになる。</p> <p>スケッチブックは、アイデアを整理そして発展させていく上で有効であり、その記録が担当教員とのコミュニケーションに役立つ道具として活用される。同じく、常に制作データ(ガラスの配合や電気炉の温度スケジュールなど)をスケッチブックに記録させる。</p> <p>学生にとって初めてのキルンワークの授業ということで、学生に対して分かりやすい指導を心がける。</p>			<p>前期に学んだ素材や技術をベースに、新たな表現の手法を探し求める。</p> <p>前期キャストイングの応用として、ロスト・ワックスの技法を学び、新たな造形表現を習得する。</p> <p>また、引き型やプレス型などの技術を得ることにより、自分の求めるかたちを作品に取り入れられるようにする。</p> <p>授業を通して、学生が、素材や技法、プロセスをトータルで考え始める機会にする。また、作品の最終展示まで責任を持たせて制作させる。</p> <p>2年次に問題なくキルンワークの制作が自分で行えるように、年間を通してキルンワークの基礎をしっかりと身に付けさせる。</p>		
到 達 目 標	この授業では、素材の感覚を得ることが目標である。また、素材を通して、キルンワークの基本的な技法を得ること。			学生が、表現として、素材、技術、またそのプロセスを総合的に考えること、また、作品の最終展示まで責任を持つことが目標である。		
成 績 評 価	成績評価の基準は以下の通りである。 積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／提出期限の厳守／授業の目標水準の到達／出席状況など。			成績評価の基準は以下の通りである。 積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／課題の完成度／提出期限の厳守／個人の成長度／出席状況など。		
留 意 事 項						